

## 第4回（仮称）都市のグランドデザイン有識者委員会 議事概要 まとめ

### 【人口の現状と将来推計について】

・65歳以上でも就業し収入を得ている多くの人々があり、高齢化社会であることは間違いがないが、就業状況や社会保障との関係からも厳密に分析する必要がある。

### 【練馬区が目指すべき30年後の都市像について】

・身近に立ち寄れる居場所のような小さな拠点は、公共の施設だけでなく民間の施設も含めて、分散的に多数存在していることが重要となる。

・将来動向における高齢化は、人口構成の変化だけでなく、75歳以上の後期高齢者の全体数が増加することも踏まえる必要がある。

・地域に住むことを支える機能をどのように空間的に整備するかは重要なテーマ。個性的な住宅地があつての魅力的な駅であり、住宅地としての捉え方を大切に扱う必要がある。

・「健康」は利便性の追求と相反するテーマではあるが、都市像の中のどこかにキーワードとして入れられると良い。

・みどりと水のネットワークによる骨格を軸として、その周辺のみどりの特徴、機能を特化させて、地域ごとに特色づけができると良い。

### 【（仮称）都市のグランドデザイン（素案）の構成について】

・配慮する視点の内容は、「前書き」には簡略化した文章で記述し、「本編」ではまちの絵姿と文章表現の中にちりばめることをイメージしている。

・4つの都市像を円に例えると、それぞれが独立するのではなく、重なる領域があり、これをどのように整理するかということ。「個性豊かな駅周辺のまち」を「個性豊かな駅周辺とまち」に変更することで一般的な住宅地を含めることが可能となる。

・都市像が重なり合いながら練馬のまちを支えていくという、ダイヤグラムの文字が入った表現が必要と考える。

・都市の役割・機能の中には抽象的で絵には描けないが大事なこともあり、柱として明確に整理したうえで、それを踏まえた絵であることが分かるようにすべき。

・75歳以上の後期高齢者数の将来的な増加について、練馬区の現状あるいは将来動向の前提とする場合、一方で練馬区には若年世代が多いことをしっかり見せる必要がある。高齢化のみを打出しすると誤解を与えるため工夫が必要。

・みどりは、存在するだけでなくその役割が重要であり、大変難しいテーマといえる。それを街路樹でどのように表現できるかはとても大事だと考える。